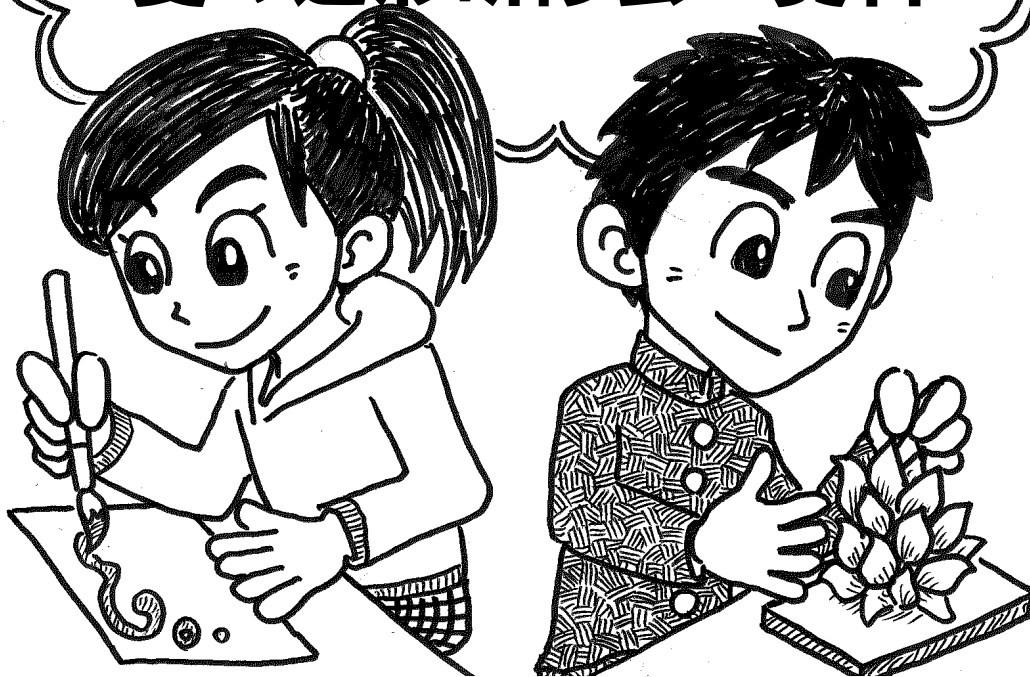




夏の造形研修会 資料



令和3年8月6日（金）実践発表 13:00～14:00

1	秋田 友加 天神山中	中1「わたして、フォントはね」
2	坂 泉美 松原小	小6「広がれ！6-2美術館」
3	伊藤 智美 御園小	小6「動き出す墨の世界」
4	福島 恭子 山王中	中3「生活を彩る染めの味わい」
5	田中 佐知 桜田中	中2「わたしのかたち」
6	三瓶由美恵 左京山中	中2「オノマトペを形に」
7	大須賀章人 豊岡小	小5「『あ！いいこと思い付いた！』があふれる造形活動」
8	佐々木めぐみ 白鳥小	小6「思いを実現する中で、意味や価値をつくり出す造形活動」

ワタシって、フォントはね。

— 文字の形のおもしろさに着目しながら、自分を表現する題材の開発 —

名古屋市立天神山中学校 秋田 友加

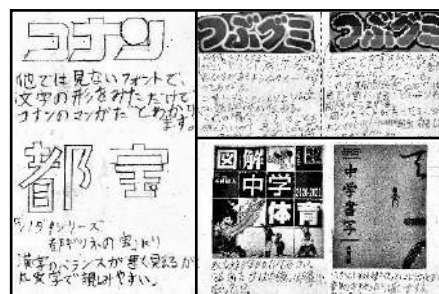
I 題材開発のポイント

本題材は、自分の好きなものや性格から発想したキーワードを基に、その形を取り入れたオリジナルのひらがなフォントを制作するというものである。普段、生活している中で、文字を読んだり、スマートフォンやパソコンで打ち込んだりする経験はあっても、つくる機会は少ない。そこで、フォントを制作することを通して、デザイナーの工夫や大変さを感じさせたいと考えた。また、自分自身をテーマにすることにより、自己を見つめ直したり、生徒同士が互いのよさに触れられたりする機会とした。

II 活動の様子

活動 1 身の回りのデザインに着目する

まず生徒は、パッケージや広告、パンフレットなどから、文字を収集し、身の回りに様々な形の文字があることを認識した。その後、色々な書体を鑑賞し、違いや特徴、書体が与える印象などを考えた。



【生徒が身近なものから収集した文字】

活動 2 オノマトペ(擬音語・擬声語)をデザインする

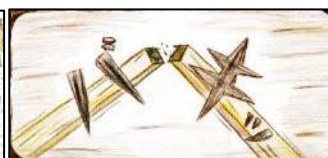
具体的な場面を設定し、感じたことを基にオノマトペの制作を行った。言葉の意味と、文字の形の関係を考えたり、色彩の効果や文字の線の太さなどを意識したりした。相互鑑賞を通して、「同じオノマトペでも、主題によって表し方が全然違う」「線の強弱や形の工夫が大切だと思った」「文字を擬人化するという発想が私にはなかったので取り入れてみたい」という感想があり、生徒はこの活動から発想の幅を広げ、自分では思いつかなかった表現の方法やアイデアを見付けていたようだ。



【雷が落ちる前の緊張の光】



【街に勢いよく落ちる隕石】



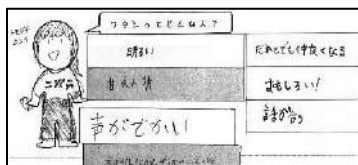
【音を立てて折れる木材】



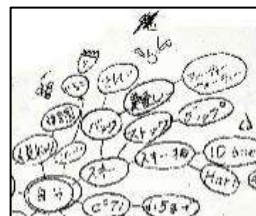
【ゆっくりとした動きの亀】

活動 3 コミュニケーションを深めよう

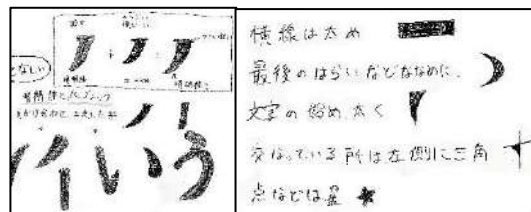
自分についての理解を深めるために、お互いのイメージを付箋に書いて渡し合う活動を行った。それにより自分では思いつかなかった長所を多くの生徒が知ることができた。この活動で得たものをヒントに、アイデアマップで更にイメージを広げた。次に、引き出したキーワードの周りにイラストや形を描いて視覚化し、パーツを分解したり、付け加えたりして、自分らしいイメージを考え



【自分のいいところが書かれた付箋】



【アイデアマップとスケッチ】



【点や線の形から発想する生徒もいた】

活動4 フォント制作

「フォント名」「字体の特徴」「字己紹介(字形に取り入れた自分紹介)」を考え、6cm×6cmのカードに1文字ずつ、デザインした文字をレタリングした。まずは、自分の名前のひらがなを制作し、「終わったら“五十音チャレンジ”してみよう！」と呼びかけると意欲的に取り組む生徒が多くいた。活動3によって「みんなの付箋のおかげで自分のイメージがわかってきて、字の形が浮かんだ」と自分自身を見つめながら制作を進める姿が見られた。

制作量の多さに、途中で意欲が下がる生徒もいたが、普段読んでいる文字もこんな風に1文字1文字つくられていることを伝え、再び気を持ち直して制作を進めていた。制作後の振り返りでも、「日ごろ使っている文字も誰かが頑張ってつくったから感謝」「デザイナーは本当にスゴイのだなと改めて思った」「今まで文字は何気なく見ていたけど、この授業をやって、これからは楽しんで見ていきたいと思った」と、文字をつくる側の気持ちに立ちながら制作を進めていた様子が見られた。

◆フォント名 さきさき好きフォント ◆文字の特徴 横線は太めで縦は細く、最初は大く最後は小さいな感じで交差している所は左下に三角点などは星にしている。 ◆字己紹介 なめらかなくちくちくしてない見やすい字を目指して考えた。 星は「何事か」の時に愛しいと書いてあったので、愛しいのイメージは星を入れてみた。	も	お	◆フォント名 宙石 フォント	く	う	◆フォント名 ハレツフォント	お	む
	あ	ぬ	◆文字の特徴 全体的にキラキラしたフォント。一部に宝石や星があり、洋風な感じ。	し	け	◆文字の特徴 丸くて、割れそう。ふうせんをイメージしてあることが特徴。	お	ん
	の	か	◆字己紹介 宙石や宇宙、星空が好き。	え	ふ	◆字己紹介 好きなことを丸めておくとこれ(らしい)。	や	あ
	と	!?		ま	か		み	え
◆フォント名 うるさいフォント	う	さ	◆フォント名 まんまるスター	み	あ	◆フォント名 スバフォント	も	け
◆文字の特徴 文字の太さを太くして、うるさいイメージをあらわしました。	よ	き	◆文字の特徴 「の」や「る」のように、輪になる部分を☆で表した。	る	か	◆文字の特徴 毛みだいの文字に似ている。	す	だ
◆字己紹介 うるさくてわざとわいているので、こういう字にしました。	る	き	◆字己紹介 ・いつもキラキラ笑顔 ・いつもかわいいお顔 ・いつもかわいいしくさず	お	せ	◆字己紹介 自分の髪の色が天竺の髪の色に似ているので、髪の色に似たフォントにした。	ひ	あ
	と	き		ど	ふ		ら	や

【フォントの解説と作品】

活動5 もじもじ字己紹介

作品解説を伏せて、フォント作品の形やデザインの特徴から相手の性格や好きなもの、それを表すための工夫点などを想像しながら鑑賞した。また全員のフォントを並べたときの印象の違いに着目させ、楽しみながら文字のデザインの面白さを感じることができた。「みんなの作品を見て、自然と本人の個性が出ていて面白かった!」「友達の知らなかったところが発見できたので、この制作が出来てよかった」「鑑賞をすると、自分が思っていなかったことや、自分にはない考えが見つかって、鑑賞って大事だなと思いました」など、相互鑑賞を通して、互いのよさを見つけ合うことができたようだった。



【相互鑑賞の様子】

Ⅲ 結果と考察

この題材を通して、生徒の日常に溶け込んでいた文字を、デザイナーの手でつくられたものだとして認識させることができた。またフォント制作の前にオノマトペデザインや、自分について考え合う活動をしたことで、個性豊かな表現が生まれたと思う。美術に対して苦手意識のある生徒も前向きに取り組んでいたため、今後も生徒が自分を表現することを楽しめる授業を考えていきたいと感じた。

広がれ！ 6－2 美術館

～児童の発見でどんどん広がっていく鑑賞活動～

名古屋市立松原小学校 坂 泉美

I 題材開発のポイント

本題材は美術作品の筆あとに着目して鑑賞することで、筆使いや色使いなどの「筆あと」の特徴を捉え、表現の意図や表し方のよさや美しさを味わうことができる題材である。

一つ一つの美術作品について児童が見て感じたり考えたりして発見したことを伝え合うことで、自分の見方、感じ方を広げ、深めることができるようにしたい。さらに、鑑賞活動での発見で得た見方、感じ方を試して自分の表現活動にも生かし、つくり出す喜びを味わえるようにしたい。

II 活動の様子

活動1 作品を鑑賞しよう

鑑賞した美術作品

- ①「王子を想う人魚姫」いわさきちひろ
- ②「星月夜」フィンセント・ファン・ゴッホ
- ③「小さな喜び」ワシリー・カンディンスキー
- ④「グランド・ジャット島の日曜日の午後」ジョルジュ・スーラ

鑑賞方法

全ての作品を見てもらうために、順番に作品を鑑賞する。（1 作品 3 分程度）
付箋を使った対話型鑑賞を行うことで、児童が作品を間近に見ながら、友達の感じたことや考えたことと自分の考えたことを比較したり、関連付けながら作品を見ることができるようにする。付箋の色は 3 色にし、観点に分けて書き、考えが一目で分かるようにする。

付箋の色分け

黄色…疑問（どうして、どうやって）
青色…事実（〇〇がある、△△が使っている）
赤色…考えたこと（〇〇みたい、～だから△△かな）

友達と話しながら「太い線で描かれているよ」や、「なぜ星が光って見えるのだろう」など作品を見て発見したことや疑問に思ったことを付箋に書いて貼っていた。「点々があった」や「凸凹していて彫刻刀で彫ったみたい」など筆あとについて書いている児童もいた。【図①】

二周目には児童は友達の疑問（黄色の付箋）を見て、同じグループの友達と相談しながら答えを考え、付箋を書いて貼っていた。また、付箋同士を見て、この付箋はこの付箋と関わっていると、付箋同士を進んでつなげて線で結んでいる児童もいた。【図②】

今までの活動で見たことを基に、ワークシートに作品から発見した筆あとと、筆あとから感じる気持ちや思いを付箋に書いた。「太い線で描いて力強い感じを表現している」「ぐるぐるした線で描いて星が輝いている様子を表している」な



【図①】



【図②】

ど、作者がどのような意図でこの筆あとを使ったのかを自分の見方感じ方で作品と向き合い、書くことができた。

活動2 筆あとを使って描いてみよう

活動1で鑑賞した4つの作品の中から自分の気に入った作品を選び、その作品の筆あとを使って自分の作品をつくる。テーマを季節にして、自分の表したい季節を表現した。複数の大きさの紙から筆あとや表したい季節に合わせた大きさのものをを選び、作品に表した。

「いろいろな色を混ぜて点々を描いてみよう」「もっと太い線で描いたほうがはっきりするかも」など、筆あとを試しながら2枚、3枚と描いていた。友達の描いている様子を見て「これどうやって描いたの」と質問をして、教え合う姿も見られた。

活動3 描いた作品を友達と見合おう

活動2で描いた作品を友達同士で鑑賞し合った。作品だけを見て、描いた友達がどの季節を選んで何を表現しているのかを予想し、付箋に書いてプリントに貼っていった。【図③④】

自分の作品の付箋を見返して、「自分が表現したいことや季節が友達にも伝わっていた」という児童や、「友達を書いた付箋は自分が考えていたのとは違ったけど、その考え方もいいな」といろいろな捉え方があることを知ることができていた。

春のおだやかな様子を表しているのかな。



【図③】

そのままだと春で逆さにすると夏で二つの季節を表しているのかな。



【図④】

III 結果と考察

完成した作品と活動3で友達が貼った



秋 紅葉がきれいという気持ち

秋が好きという気持ち

付箋の内容



左 季節…秋 紅葉がきれいで見に行く様子を表現

上 季節…春 日光が差して芽が光る感じを表現

春になり新しい芽が出るところ

夏 日光の光を表している

春 心地よい感じ

一つの芽が成長する感じ
水の周りで

鑑賞では筆あとを見つけるだけでなく、作品のよさ、意図も感じることができた。

付箋を使った対話では、自分の意見を書いただけで、友達の返答がどうなっているのか、つながった付箋が付け加わっているのが確認しにくいため、常設で教室に掲示したり、後で振り返ったりする活動を入れた方がより対話の深まりがあると感じた。

今回の実践では、クラス全体やグループで感じたり考えたりして発見したことについて伝え合うことで、自分が考え付かなかった意見を知ったり、友達の疑問からさらに作品について考えたりと、自分の見方感じ方を深めることができた。また、作品づくりのヒントになるような作品を鑑賞することで、後の製作活動にも生かすことができたと思う。今後も様々な表現方法に触れて発見したことを大切にして、児童の表現がより豊かになるようにしていきたい。

動きだす墨の世界

—鑑賞と技法体験を生かしながらダイナミックに表現する題材の工夫—

名古屋市立御園小学校 伊藤 智美

I 題材開発のポイント

本題材は、自分の決めたテーマを大きな和紙に動きのある墨の表現でダイナミックに表す題材であり、社会科で「水墨画」を学び、「動き」がある表現を重視する 6 年生に適している。その題材で、墨の特性を見つめながら「自分の表現したいもの」をもち、表現技法を生かしていく作品づくりを通して自分の思いに合う表現を目指すことができるようにしたい。そこで、本製作の前に、対話型鑑賞活動と技法体験活動を設定して、自分の見方・感じ方を伝え合って思いを広げたり、材料や表現技法の特性をつかみながら生かし方を考えたりできるようにした。

II 活動の様子

活動 1 じっくり見て、見方・感じ方を伝え合う対話型鑑賞活動

筆の動きや墨の濃淡、構図などが特徴的な「墨」のアート作品を大きく映し出し、作品をじっくりと見て気付いたことや思ったこと、感じたことを「みるみるカード」に自由に書いた。その後、学級全体で自分の見方・感じ方を伝え合い、自分の作品に生かせそうなことを考えてカードに書いた。児童は「かすれたところは、すごく速い感じがするね」「にじんだ部分は、かっこいいけど怖い印象がある」など感想を伝え合った。様々な感じ方に触れ、墨の表現に対する見方・感じ方を明確にして本製作に臨むことができた。

【みるみるカード】

活動 2 材料や表現方法の特性を捉え、生かし方に目を向ける体験活動

筆、刷毛、木工用ボンド、スポンジ、たわし、ロープ、ひも、定規、割りばし、ビー玉、ストローなど墨をつけて描くと面白そうな用具を用意した。児童は様々な用具を使い、水の量を調節しながら、墨の特性を生かした表現方法を十分に試した。活動を通して、その特性を捉え、生かし方に目を向けることで、児童の表現方法の選択肢は増え、自分の思いに合う表現を目指し工夫する意欲を高めることができた。

水で濃淡を表そう

かすれると勢いが出るね

ジャジャーン!!

水でほかすと優しい感じ

繰り返す、墨の特性をキャッチ！生かし方を考える。

水のかけ方で、線の雰囲気が変わるね

形が丸いと、かわいい感じもするな

【墨の特性を試してみよう】

【試したものをつるして鑑賞しよう】

自分の思いを表現できるように用具を工夫して「新しい表現アイテム」つくった。児童は「もっと〇〇みたいな線を描きたい」「〇〇を使ったらどんな模様になるだろう」と考えて試すことができた。また、友達の影響表現アイテムも共有して感想を述べ合うことで、その特性を捉えたり、新しい表現の仕方を見つけたりして、墨の表現を広げることができた。



【どんな表現アイテムにしよう？】【布を筆みたいに束にしてみよう】 【墨をつけて試してみよう！】

本製作 「動きだす墨の世界～みんなの時間～」

活動1・2から、児童は墨で表現するおもしろさを感じ取り、作品をつくりたいという意欲が高まった。そこで、筆の動きや水の加減、構図などを工夫して大きな和紙で表現しようと投げ掛けた。すると、「みんなと楽しい時間を過ごしたことを描きたい」という意見が出て、「みんなの時間」というテーマで作品づくりを行うことが決まった。そして、「みんなの作品をつなげて一枚の大きな作品にしたい」という児童の発言から一人一枚製作し、全作品を横並びにして一本動きのある線で繋がるようにした。児童は、墨の線に様々な思いを込めたり、偶然できた線のおもしろさを感じたりしながらダイナミックに製作を進めた。



【活動経験を生かして表現しよう】

ぼくたちは仲が良く支え合っているということを表現したい

みんなと繋がる線は、元気で力強く堂々としたクラスだと伝えたい

つくった道具を貸し借りしたり、ビー玉いいねと話したり、みんなで何かやるのが楽しかった



【線でつながる「みんなの時間」完成！】

Ⅲ まとめ

「みるみるカード」を使った対話型鑑賞や墨の特性を捉えるための体験活動を事前に設定したことで、墨の表現に自分なりの見方・感じ方をもち、生かし方を考えることができた。そこから広がった自分の思いをもとに、「みんなの時間」というテーマで動きのあるダイナミックな表現を追求することができた。これからも製作に生かせるように引き続き指導していきたい。

生活を彩る染めの味わい

－文化と伝統を味わい、伝統的な技法を用いてリメイクする題材の研究－

名古屋市立山王中学校 福島恭子

I 題材開発のポイント

文化と伝統を感じながら染色の楽しさを味わい、美術への興味・関心を高めさせたい。単に布を染めるという技法のみにとどまらず、美しさを醸し出す模様やその配置について考えさせたい。

本題材は、生活用品を伝統的な技法を用いて絞り染めでリメイクし、そのよさや美しさ、作者の工夫などを感じ取ることをねらいとする。既存のものに絞り染めを加えて、生活の中で使いやすい色と模様の調和を考えて創造する題材である。

II 活動の様子

活動1 絞り染め作家による絞り染めの技法の習得

絞り染めを生かしたオリジナルタオルを制作した。絞り染め作家による出張授業で、有松絞りの3つの技法を習得した。興味のある技法を組み合わせ、模様の配置を考えながら絞り染めを行った。1回目の絞りは、模様注目させるため、藍色のみで染めた。

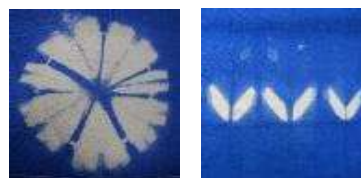
〈技法1〉 帽子絞り



〈技法3〉 菊花絞り



〈技法2〉 蜘蛛絞り



互いの作品を鑑賞した。それぞれの技法のよさと美しさを感じ取り、2回目の生活用品へのリメイク絞り染めへの意欲を高めた。リメイクする材料ごとにグループをつくり、材料の生地や形に合う3つの絞りの形や配置の工夫を比べて相談し合って構想した。全体の形と模様との調和を考えた構想を練る姿が多く見られた。

「帽子絞りの星とハート」



「角からななめに帽子絞り」



「菊花絞りと帽子絞りのうさぎ」



3つの絞りを組み合わせたり、応用したりして、絞りの形を工夫した。

「輪ゴムのかける位置を変えた菊花絞り」



「菊花絞りの畳み方を変えた模様と蜘蛛絞り」



美術室の中に全クラスの絞りの試しの作品をつるして、自分の次への作品への構想を練った。

活動2 生活用品リメイクに合わせた絞りの色と模様の構想

リメイクする生活用品をどのような時に誰が使用するかを考え、完成イメージをもちながら、効果的な技法を選択し、構想し、絞り染めを行った。(染料は、藍色、緑色、赤色の3色から選択する)

絞り染め前



絞り染め後



Tシャツにある文字やイラストを生かして染めてみたい

祭りのときに着たい
帽子絞りでわの文字を輪
で目立つように

眼鏡が引き立つように
帽子絞りをななめに大きく



白いTシャツを前と
後ろを違うデザイン
で工夫したい

高く青く澄んだ青空を
イメージして、3つの絞りを
工夫



ななめに柄を配置して
オシャレで可愛く青に白が映える

活動3 鑑賞

商品タグ風の作品カードを作り、それぞれの作品のよさや美しさ、作者の工夫を感じ取った。

値段設定した商品タグ風の作品カード



有松の「和」を意識してうすい色づかいをしたのかな。



線がとてもきれい。
中央に1つでバラ
ンスもよい。

古着さんみたいで
値札（作品カー
ド）を見ながら楽
しめた。

鑑賞プリントの言葉より

同じ絞りでも、配置や大きさが
違うだけで大きく違って見える

デザインを考える上で画面の構
成と色合いの重要さを学んだ。



Ⅲ 研究のまとめ

生徒は始め「伝統工芸は堅苦しくて難しそう」と言っていたが、工夫することで新しい模様を生み出すことのできる楽しさに気付くことができた。また、染めのときに、生地と絞りとの調和により生み出される鮮やかで落ち着いた自然染料の色を美しいと感動した生徒も多く見られた。

家庭から持ってきた布製品の全体の形がさまざまであるため、四角ではない形をキャンバスに見立てる様な経験になった。全体の形からその形に合う配置と模様を考え、絞りの大きさや模様の組み合わせを工夫することができた。また、絞りの大きさや模様は、糸や輪ゴムなどの巻き方で調節できることにより、手先が器用ではない生徒も思った通りの配置や模様をつくり出すことができた。

絞りは、元の生地の素材や色によっても絞りの形や染料の色が変化するため、今回はその偶然性を楽しみながら制作した。次は、そのような偶然性のよさを考慮した生地や元の色を生かす絞り染めの手立てを考えていきたい。

わたしのかたち

—主題を明確にし、抽象表現のおもしろさに触れる題材の開発—

名古屋市立桜田中学校 田中 佐知

I 題材開発のポイント

授業で作品を制作する際、「何も思い浮かばない」と口にする生徒の姿をしばしば目にする。話を聞くと、「何をつくったらいいかわからん」と返ってることが多い。生徒との対話から、このような生徒たちは作品に対する明確な主題が見えていないことや、主題の探求が不十分なことが予想される。私は生徒が主題を明確にし、主題を表現するために意欲的に制作をする姿が見たいと考える。また、本校の生徒は「写实的＝表現が上手」と思っている生徒が多く「リアルにつくれないから制作が苦手」という声もよく聞く。

そこで、①深めた主題から発想を広げ、つくりたいイメージを明確にすること②自分の内面的な、言葉で言い表せないような感情や心情を効果的に表すことができる抽象表現のおもしろさがあることを生徒に気づかせたいと考え題材開発に取り組んだ。

本題材は、自分の感情・性格をスチレンボードと軽量粘土を使って抽象立体で表現する題材である。自分との対話を通して主題を明確にすること、頭の中にイメージした形を表現しやすいスチレンボードや軽量粘土を使うことを手立てとし、広げたイメージを抽象的に表現させた。

II 活動の様子

活動1 自己分析をして自分を見つめよう

「わたしのかたち」の主題を明確にするための手立てとして生徒たちに右記の①～⑤の視点から「わたし」について見つめさせた。②③の活動では、クラスの友達の印象を互いにワークシートに記入した。生徒は、友達の印象を書き出し、場合によってはその印象をリフレーミングして、自他を分析しワークシートに記入した。友達が分析した自分のワークシートが戻ってくると「見て！意外なこと書いてある！」と驚く生徒や「みんなはまだまだ分かっていないな。」など、自分の考えと比較をする生徒がいた。それぞれが①～⑤の視点から「わたし」についての理解を深めることができた。

制作する抽象立体の土台を「今の『わたし』」、上に乗せる立体を「これからなりたい『わたし』」、として自己分析をもとに主題を決定させた。

- ① 自分からみた「わたし」
- ② 他者からみた「わたし」
- ③ 自分は気付いていないが他者は気づいていた「わたし」
- ④ 自分だけが知っている「わたし」
- ⑤ これからなりたい「わたし」

【様々な視点から自分を考える】

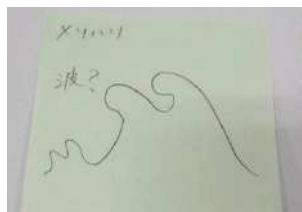


見て！
意外なことが書いてあった！

今のわたし：「うさぎ」わたし
これからのわたし：「メリハリをかけた」わたし

活動2 アイデア交換会をしよう

活動1で決めた主題から連想する抽象的なイメージを形・色に置き換えアイデアスケッチをした。しかし、なかなか主題に対するイメージが浮かばない生徒もいたので、アイデア交換会を行った。アイデア交換会では、それぞれが深めたい主題のイメージをグループで話し合い、制作のヒントとなるようにした。友達との対話の中からイメージが深まった生徒が多く、授業後の振り返りシートにも『メリハリ』というテーマで、一人で考えていた時には赤と青など色しか思い浮かばなかったけど、友達が出してくれた『波』というイメージをもとにうねうねした形とキザキザした形でメリハリを表現していくことにした。」と主題が深まっていった記述があった。



元気なイメージはメガホンかな？

【主題に対するイメージの言葉と形を付箋にかき意見を交換する】

【アイデア交換会での付箋とアイデアスケッチ】

活動3 「わたしのかたち」の制作をしよう

生徒はアイデアスケッチを見直しながら、『みんなに優しいわたし』がテーマだから、もっと丸をたくさんつけて優しい感じを表現していこう」など抽象的な形をどのように組み合わせたらいいか、作品と対話をしながら制作を進めることができた。



【作品名：
私の結晶】



【作品名：
良い人生】



色は落ち着いた水色にしよう

活動4 プレゼンテーションをしよう

プロジェクターを用い、作品についてのプレゼンテーションを行った。どの部分にどんな「わたし」が表現されているかを自分の言葉で説明できるよう、ワークシートに意図や思いを記入させプレゼンテーションの準備をした。生徒は、「この作品には挑戦という意味を込めた丸が集まって」など明確な意図を作品の紹介とともに説明することができた。



【作品名：
壁を壊す】



Ⅲ まとめ

様々な方面から自己分析をしたことで、自分が表現したい主題を明確化することができた。また、アイデア交換会を行うことで、友達との対話の中から更に主題を深めることができた。また、「丸や四角ならつくれる！」と抽象表現のおもしろさを味わいながら制作している姿も多く見られた。今後も主題を明確にし、意欲的に作品制作をする姿を見ることができるよう題材開発をしていきたい。

オノマトペを形に

—自ら発想・構想し主題を実現することができる題材開発—

名古屋市立左京山中学校 三瓶 由美恵

I 題材開発のポイント

本題材はオノマトペから形を想起し、粘土を用いて立体で表現する題材である。

本学年の生徒は、美術の授業に大変意欲的に取り組んでいる。しかし、作品の構成を考え、組み立てることが苦手な生徒や、失敗を恐れて慎重になってしまい、制作に時間がかかってしまう生徒が多い。そこで、参考作品の鑑賞やアイデアスケッチの時間を充実させることで、自ら発想・構想する力を伸ばし、楽しくスムーズに制作できるようにしたい。

II 活動の様子

1 鑑賞ゲーム

- (1) ヘンリームーアやブランクーシなどの抽象作品を鑑賞し、作品の形や印象に着目してオノマトペで名前を付ける。また、名付けた理由も考える。
- (2) グループで、名付けた作品を当てるクイズを出し合う。答え合わせには、名付けた理由も合わせて発表する。

「びーん」は、これかな？



正解！ぴんと弦が張ったような感じがしたよ。

【ブランクーシ 「空間の鳥」について】

ジャックと豆の木を思い出して、豆の木が生長していくシーンを想像したから、「ぐんぐん」にしたんだ。



【ヘンリームーア
「ラージインテリアフォーム」について】

2 ひらめき重視のアイデアスケッチと材料体験

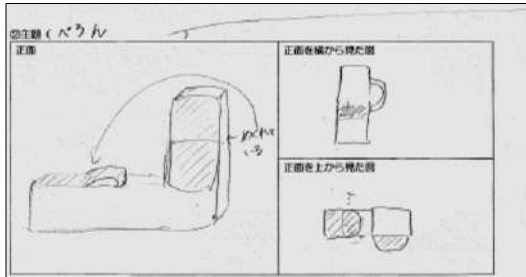
- (1) アイデアスケッチの形式を紙面か、油粘土の試作かを選択させ、イメージを実現化しやすくした。(油粘土の試作を選択した場合は、後日写真撮影し、アイデアスケッチプリントに貼り付けをさせた)。

「ぼろぼろ」を表現するのに、指やヘラだけでは難しそうなことに気がつきました。粘土は削れるようなので、立方体を直接小刀で削りました！



【「ぼろぼろ」を表現するために、試行錯誤した生徒】

- (2) 不安や迷いが見られる生徒には、積極的に油粘土の試作を勧め、材料から得るひらめきや材料に慣れ親しむことを大切にした。
- (3) 心棒の使い方を伝え、新聞紙や針金、爪楊枝などを使用可とした。
- (4) どんな形や色彩のオノマトペを目指すのか、常に生徒に問いかけ、試行錯誤させた。



→



【「ペロン」をより伝わりやすく試行錯誤し、生徒が試作したもの】

3 制作・着色

- (1) 試作がある生徒は、試作を見ながら制作に取り組ませた。
- (2) 粘土を扱う時には、道具（ヘラでたたく、机にたたきつける…）を意図的に使うように指導した。
- (3) 着色では、色の進出・後退、膨張・収縮を伝え、色でも造形を操作させた。



【ヘラで切るように制作した生徒】 【色を利用し、形の広がり表現した生徒】

Ⅲ 結果と考察

鑑賞ゲームでは、普段馴染みのない抽象彫刻にも楽しく親しみながら鑑賞することができていた。この段階で生徒の着眼点と造形の要素を結び付ける練習ができていたので、アイデアスケッチの際に、オノマトペを絵にしたり形にしたりする活動につまずく生徒が少なかった。

アイデアスケッチは、生徒の思いに寄り添い、各々が形にしやすい手段を選択させたので、制作への取りかかりもスムーズであった。油粘土での試作を望んだ生徒が多かったが、中にはその後の制作の見通しを立て、計画的に進めることができた生徒もいた。

この題材の取り組み全体を通して、生徒のひらめきを引き出し、生徒の主題を実現するきっかけづくりをすることができたと考える。生徒が主体的に発想・構想し、見通しをもって制作する姿を多く見ることができた点や、例年より多種多様のオノマトペをモチーフにした作品ができあがった点良かった点である。

次年度以降は、さらに多くの抽象作品を鑑賞させ、生徒の発想力を引き出したい。

「あ！いいこと思い付いた！」があふれる造形活動

名古屋市立豊岡小学校 大須賀 章人

I 研究のねらい

私は、図画工作の授業で子どもがうれしそうに「あ！いいこと思い付いた！」と言う姿を見たいと思っている。なぜなら、その瞬間、子どもの頭の中には発想があふれ、早く表現したい、と主体的に学ぶ姿が見られるからである。

しかし、高学年で図画工作の授業を行うと「これでいいですか？」と教師に確認をとりながら製作を進める子どもや、周りをきょろきょろと見回し、なかなか製作に取り掛かれない子どもに出会うことが多くある。低学年では授業だけではなく、休み時間等に絵を描いたり粘土遊びをしたりする子どもも少なくない。学年が上がるにつれて、描きたい、つくりたいという思いよりも、本物そっくりに描かねばならない、周りから見て褒められるような作品がよい作品だという感覚が勝っていき、表現することに消極的になってしまい、主体的に学ぶことができない子どもが多くいるのである。

そこで、子どもの「あ！いいこと思い付いた！」を引き出すために、まず様々な表現に触れさせ、色や表現に関わる引き出しを増やすべきだと考える。経験のないところから新たな発想を生み出すことは難しいと考えるからである。色や表現に関わる引き出しから生まれた発想を作品に生かし、納得いく作品を仕上げる成功体験を積むことで、次第に自信をもって、発想したことを作品に表現することができるようになる。しかし、発想したことを試し紙で試してみても、実際に自分の作品に取り入れてみると納得いかない仕上がりになってしまうことがしばしばある。そのようなことがないように、発想したことを安心して作品に生かすことができるように試しの方法を工夫して、確実に成功体験を積み重ねていく。子どもの中に成功体験が積み重なったとき、「あ！いいこと思い付いた！」という言葉があふれるのではないだろうか。そして、そのあふれんばかりの発想は子どもの中の描きたい、つくりたいという思いを強くし、主体的な学びにつながると考える。そこで、以下の2点を手立てに実践を進めていく。

【手立て①】 多様な表現方法に触れるプチ題材の設定

様々な色や表現方法に触れるプチ題材を本題材前に設定することで、子どもの色や表現に関わる引き出しを増やしていく。今まで使ったことのない色や、色の組み合わせ、表現方法に目を向けられるような題材を設定する。

【手立て②】 発想したことを安心して作品に生かせるような試しの方法の工夫

子どもが得た色や表現に関わる引き出しを安心して作品に生かすことができるように、作品をコピーしたものに試させるなど、試しの方法を工夫して表現を追求させ、納得いく作品が仕上がる成功体験につながるようにする。

II 研究の内容

1 第1次実践 「心に残ったあの時 あの場所」（6時間）

(1) 題材について

本題材は、自分の生活を見つめて、その時感じた気持ちや思いから主題を見付け、形や

色、構成の美しさを考えながら、表し方を工夫して絵に表す題材である。プチ題材を通して得た色に関する引き出しを生かして、気持ちや思いを工夫して表現できるようにする。

(2) 活動の様子

【手立て①】 多様な表現方法に触れるプチ題材の設定

本題材に入る前に「アメを食べたらどんな感じ？」というプチ題材を行った。このプチ題材は、ランダムに細かく切られた様々な色の画用紙を、あらかじめのりを付けておいた丸い台紙の上に散らしながら貼り付けていき、アメをつくる題材である。切った画用紙を散らしてつくることによって偶然性が高まり、普段自分があまり使わないような色の組み合わせや、意図と違った色の組み合わせなどが表れるようにし、そこから新たな引き出しを得ることができるようにした。



【友達と交流し、引き出しを増やす】

作品ができた後は、「そのアメを食べたら、どんな気持ちになるかな？色から考えてみよう」と投げ掛けた。児童は「黄とオレンジとピンクの部分を含めると明るい気持ちになりそうだ」「その部分を食べると、温かい気持ちにもなりそうだよ」「だんだん色が濃くなるから、食べていくうちに気分が落ちていきそう」など、自分の作品はもちろん、友達の作品も見ながら対話することで、色についての引き出しを増やすことができた。

黄とオレンジとピンクの部分をなめると、明るい気持ちになるよ。
(本人)
温かい気持ちにもなりそう。(友達)

水色と黄色、薄い色同士食べるとさわやかになるよ。



だんだん色が濃くなるから、食べていくうちに気分が落ちていきそう。

【完成したアメ】

【手立て②】 発想したことを安心して 作品に生かせるような試しの方法の工夫

子どもがプチ題材で得た引き出しをもとに発想したことを、安心して表現できるように、試し紙の代わりに下描きを画用紙にコピーしたものを用意した。実際の作品と同じ絵で試しをすることで、自分の発想したことが本当に作品に合うかどうかを試することができる。

右の絵を描いた子どもは、琵琶湖で遊んだときのさわやかな気持ちと友達と泳いで楽しかった気持ち、感動するほど透明だった水の透明感を表すために、背景の色に試行錯誤する様子が見られた。特に水の透明感を出すための体の透け感について、どの部分をどれくらい透けさせるとよいかコピーしたものに試しながら確かめていった。



【試しの様子】



【試し中のもの】

(3) 分析・考察

【手立て①】 多様な表現方法に触れるプチ題材の設定については、作品での色の組み合わせは多様であったため、ある程度効果的だったものの、散りばめる画用紙の色の種類にも限りがあり、よく似た作品ができてしまった。第2次実践では、主に絵の具を使うことで表現の自由度を高め、多様な表現を生み出すことができるようにする。

【手立て②】 発想したことを安心して作品に生かせるような試しの方法の工夫については、実際の作品と同じ絵で試すことができたので、安心して作品に色の引き出しを試すことができた。しかし、作品全体をコピーしたものを一人1枚渡したので、試行錯誤について子どもの力の入れどころが散漫になってしまったり、一度しか試すことができなかったりして、表現を十分に追求することができなかったことで、仕上がった作品に満足できず、成功体験として感じられない子もいた。第2次実践では、作品全体ではなく、最も力を入れた部分をコピーし、一人に複数枚渡すことで、何度も試し、表現を追求できるようにする。

琵琶湖で遊んだときのさわやかな気持ちと友達と泳いで楽しかった気持ちを出すために、水色の中に少しピンクを混ぜた。水の透明感を出すために手を透けさせた



完成作品「琵琶湖の海で遊んだよ」

2 第2次実践 「言葉から思いを広げて」(6時間)

(1) 題材について

本題材は、詩や物語からイメージを広げながら形や色の構成を考え、言葉から感じたことを形や色で捉え、楽しみながら工夫して絵に表す題材である。プチ題材を通して絵の具の多様な表現の引き出しを増やし、それを生かすことができるようにする。

(2) 活動の様子

【手立て①】 多様な表現方法に触れるプチ題材の設定

まずはプチ題材として、「わたしの表現と あなたの表現 みんなちがって みんないい」を行った。グループ内でテーマを決め、そのテーマに合った表現を一人一人が小さな画用紙に描くというものである。同じテーマでも、一人一人が違う表現をするため、互いの表現に触れ、引き出しを増やすことができる。また、テーマごとに出来上がった表現を黒板に集約することで、他のグループの友達の表現にも触れ、更に引き出しを増やせるようにした。「ドリッピング懐かしい！ドリッピングで描く木もいいね」「葉が茂っている感じは、水が少な目の絵の具でトントントンした方がいいかな」「僕は水が多い絵の具で色を付けたこの感じの木が好きだな、今度やってみよう」など、活動中も黒板に貼られたみんなの作品を見るときも、互いに対話をしながら引き出しを増やしていくことができた。



【多様な表現方法に触れる様子】



【テーマ「葉が茂った木」でできたもの】

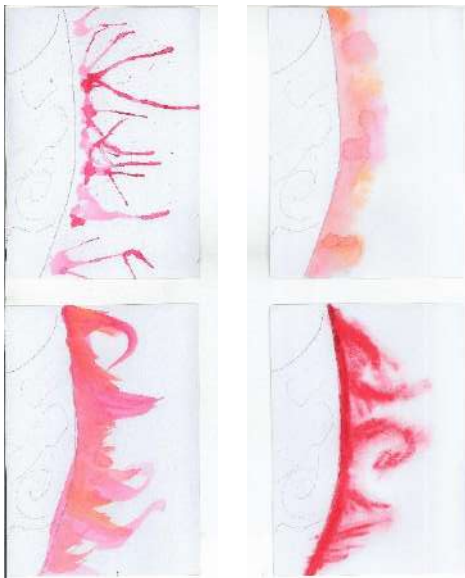
【手立て②】 発想したことを安心して作品に生かせるような試しの方法の工夫

作品の中で最も力を入れて表現したい部分を決めさせ、その部分を切り取ったコピーを複数枚渡し、何度も試しができるようにした。以下は、子どもの試しと完成作品である。

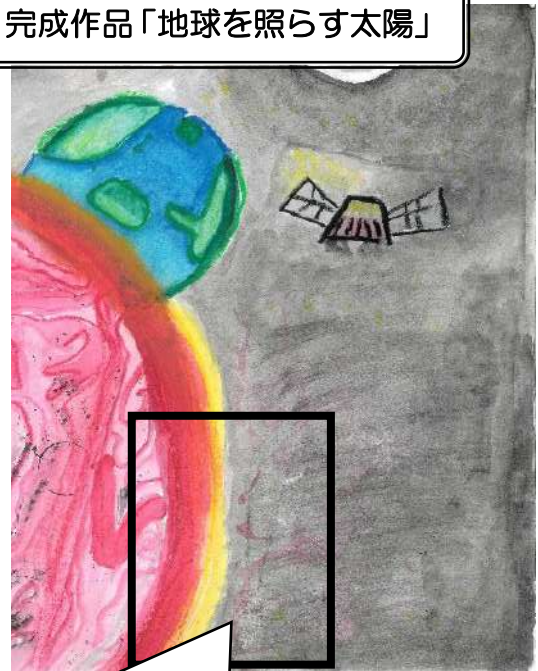
子どもの思い

宇宙の神秘太陽のプロミネンスの自然発生的な様子を表現したい。

試しの作品



完成作品「地球を照らす太陽」



太陽のプロミネンスの自然発生的な様子を出すために、にじみを使ったり、クレパスのぼかして表現したり試行錯誤していた。最終的にドリッピングの偶然的な表現にすることにした。

(3) 分析・考察

【手立て①】多様な表現方法に触れるプチ題材の設定については、多種多様な表現を見ることができた。同じテーマでも表現がそれぞれ違うことで、今まで自分になかった表現の引き出しが増えていた。しかし、短い時間でどんどん表現していくことが難しい子どももあり、もう少し活動時間が長ければ更に新しい表現が生まれたかもしれないと考える。

【手立て②】発想したことを安心して作品に生かせるような試しの方法の工夫については、作品の一部分のコピーを複数枚渡すことにより、より集中して一つ一つの表現を追求し、満足のいく仕上がりにつながった。子どもの口からも「今回すごく頑張ったよ」「いい感じに色を付けることができた」と聞こえてきたところから、今回の経験が成功体験となったと考える。また、最初に決めた最も力を入れて表現したい部分以外の部分に色を付けるときに「スポンジで色を付けてみていいですか」「こんな感じで色を付けてみたけど、どう?!」と聞きに来る姿も見られ、新たな発想があふれてきているようだった。

Ⅲ 研究のまとめ

第2次実践の子どもの姿からも、プチ題材で表現の引き出しを増やし、試しの活動から納得のいく作品を仕上げ、成功体験を積むことが、子どもの「あ！いいこと思い付いた！」を引き出すことにつながっていくことが分かった。今後も、子どもの「あ！いいこと思い付いた！」という言葉があふれ、主体的に学ぶ姿を見ることができるよう、指導や支援を重ねていきたい。

思いを実現する中で、意味や価値をつくりだす造形活動

～ 感覚を働かせる体験活動と振り返り活動の充実を通して ～

名古屋市立白鳥小学校教諭 佐々木めぐみ

I 研究のねらい

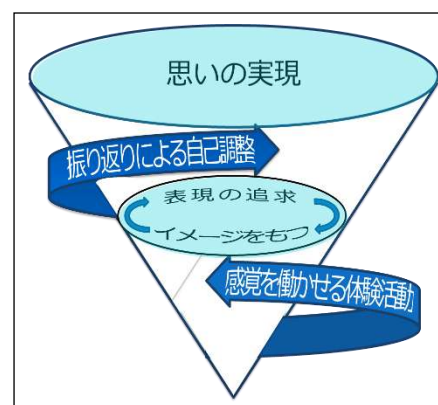
私は、児童が「自ら材料などに働き掛けることで抱いた思いが、形や色などによって実現できた」という実感を積み重ねてほしいと願っている。学習指導要領の改訂のポイントの一つに、表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」を働かせることがある。図画工作科では、「造形的な見方・考え方」を「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」としている。私はこれまでの実践で、児童が自らの活動や作品に対して満足できない姿を何度も見てきた。それは、作品に使われた形や色、材料、作品をつくる過程の自分自身の行為、感じ方などに対して、自分にとっての意味や価値をつくりだせなかったために、作品ができたとしても、思いが実現できたと言えなかったからではないかと考える。児童が、造形的な見方・考え方を働かせながら、思いを実現する中で、造形活動（完成作品だけでなく、製作途中に表現されたものや表現する行為も含む）に自分にとっての意味や価値をつくりだすことができるようにしていきたい。

そこで、次の2点を充実させたい。①イメージをもつこと（アルミはくを握って広げると光が反射して海の水面みたい。）②表現を追求すること（アルミはくにできたしわに色も付けて光る海を表そう。）である。

①では、感覚を働かせる体験活動を通して、形や色などの感じを基に自分のイメージをもつことを大切にしたい。平成20年告示の学習指導要領では、形や色などの造形的な特徴の理解を、「自分の感覚や活動を通して」と示していたが、今回の改訂では「自分の感覚や行為を通して」となった。一つ一つの行為から形や色などの造形的な特徴を理解することを重視したからである。そこで、自らの行為を通して材料と向き合い、自分のイメージをもつことができるようにするための「感覚を働かせる体験活動」を設定し、見方や触れ方などの行為の広がり、より多様な造形的な特徴の理解へとつながり、より豊かなイメージへと膨らんでいくことを期待したい。

②では、自分の活動を振り返り、自分の思いと行為や形、色などの意味や価値を結び付けながら、表現を追求していくことを大切にしたい。図画工作科では、「子どもはつくっている作品と一体化する」とよく言われる。しかし、製作に夢中になっているときにも、自分の活動を見つめ直すことで、よりよい表現が生まれる瞬間がある。このように、自分の行為や形、色などを見て活動を振り返り、学習を自己調整していく力を働かせることは、自分の思いを再確認し、自分の行為や形、色などに対して自分にとっての意味や価値をつくりだしていく上で大切なことである。ここでの学習の自己調整とは、どのように表すか見通しをもち、表現し、自分の表現について振り返り、どう改善するか考える、という表現の追求のPDCAサイクルを学習者自身が回すことである。このように、自分の行為や形、色などについて、思いが実現へとつながる道のりを具体的に振り返り、学習の自己調整を促すことができるようにする。

これら2点を充実させることで、自分の思いを実現する中で、意味や価値をつくりだす造形活動となるようにしたい（図1）。



【図1「意味や価値をつくりだす造形活動」の過程を図式化したもの】

Ⅱ 児童の実態

1 調査の対象 名古屋市立白鳥小学校 6年 31人

2 調査の方法

質問紙の記述と1学期に行った題材に取り組む様子や振り返りの記述から児童の実態を把握する。

3 調査の結果と考察

1学期の題材「プラダンアート」において、表1・3の評価規準に基づいて、活動の様子や振り返りの記述から、「イメージをもつこと」「学習の自己調整」がどれだけできているのかを見取った。そこで、この結果と、6月に行った質問紙による調査結果をクロス集計し、分析した(表2・4)。

表2から、質問事項「かいたりつくったりする前に十分試すことができますか」において、試すことが十分、または、まあまあできていると答えた児童26人のうち、イメージをもち、具体的に表したいことを考えている児童が11人で、イメージをもつことができない児童は5人と読み取れる。このことから、十分に試すことができている児童は、表したいことのイメージをもつことができる傾向にあると言える。この結果から、「十分に試すこと」を充実させることが、イメージをもつことにつながるのではないかと予想できる。

表4から、学習の自己調整ができている児童10人のうち、8人の児童が、質問事項「思い通りにつくることができるかどうか」において、十分にでき

ている、または、まあまあできていると答えている。一方、学習の自己調整ができていない児童8人のうち、半数の4人は、思い通りにつくることができていないと答えている。このことから、学習の自己調整を図ることができる児童ほど、思い通りにつくることができていると感じていると言える。

これらの結果を踏まえると、「十分に試す体験活動により、イメージをもつこと」と「学習の自己調整を図り、表現を追求すること」を充実させることが、思いを実現する中で、意味や価値をつくりだす造形活動につながると予想できる。

4 観察児童

	観察児童A		観察児童B		観察児童C	
実態調査	思いを実現する	○	思いを実現する	○	思いを実現する	△
	イメージをもつ	◎	イメージをもつ	○	イメージをもつ	△
	表現を追求する	○	表現を追求する	○	表現を追求する	△
学習の様子	図画工作科における活動全般に大変意欲的に取り組むことができる。表したい明確なイメージをもち、自分から進んで製作したり、表現を工夫したりできる。 めあてを基に活動を振り返る際、課題ばかりに目が行き、作品に自信がもてない。		図画工作科における活動に意欲的に取り組むことができる。しかし、表したいもののイメージを明確にできずに、製作の場面でつまづいていることがある。 めあてを基に活動を振り返り、成果または課題を見付けることができる。		表したいことのイメージがもてず、製作に取り掛かれないことがある。友達や教師と交流し、イメージを明確にできると、進んで取り組むことができる。 自分なりのめあてや見通しをもって取り組むことができない。	
目指したい姿	感覚を働かせる体験活動から得た材料の特徴を生かして、表したいことを見付け、形の面白さや動き・バランスなどの構成を考えて、工夫して立体に表そうとする姿。 ワークシートを活用して学習の自己調整を図り、表現を追求し、意味や価値をつくりだそうとする姿。		感覚を働かせる体験活動から得た材料の特徴を生かして、表したいことを見付け、表したいものをイメージしながら、工夫して立体に表そうとしている姿。 ワークシートを活用して学習の自己調整を図り、表現を追求し、意味や価値をつくりだそうとする姿。		感覚を働かせる体験活動から得た材料の特徴を生かして、表したいことを見付けたり、表したいものをイメージしたりしながら立体に表そうとする姿。 ワークシートを活用し、めあてや見通しをもって学習に取り組み、学習の自己調整を図ろうとする姿。	

【表1 題材「プラダンアート」によるイメージをもつことの評価】					
評価規準【イメージをもつこと】					
◎	自分のイメージをもち、それを具体化して表したいことを考えている。				12人
○	自分のイメージをもっているが、表したいことに具体的につなげられていない。				12人
△	自分のイメージをもつことができていない。				7人

【表2 クロス集計「イメージをもつこと×試すこと」6月】					
試すこと イメージをもつ	十分 できている	まあまあ できている	あまり できていない	できていない	合計
◎	4人	7人	1人	0人	12人
○	5人	5人	2人	0人	12人
△	2人	3人	1人	1人	7人
合計	11人	15人	4人	1人	31人

【表3 題材「プラダンアート」による学習の自己調整の評価】				
評価規準【学習の自己調整】				
◎	めあてを基に活動を振り返り、成果と課題を見付けている。			10人
○	めあてを基に活動を振り返り、成果または課題を見付けている。			13人
△	めあてや見通しをもって取り組んでいない。			8人

【表4 クロス集計「学習の自己調整×思い通りにつくる」6月】				
学習の自己調整 思い通りにつくる	◎	○	△	合計
十分にできている	3人	5人	3人	11人
まあまあできている	5人	4人	1人	10人
あまりできていない	2人	3人	3人	8人
できていない	0人	1人	1人	2人
合計	10人	13人	8人	31人

Ⅳ 大学・各機関、書籍による研修

1 国立教育政策研究所教育課程研究センター 小林恭代 研究開発部教育課程調査官

本研究の授業実践における「ビビッとアート」について御指導いただいた。材料にじっくりと触れる材料体験を重視することで、材料の特徴をより深く理解させようとした活動は意義深いという評価をいただいた。さらに、児童が個々に理解した特徴について、互いに共有し、作品づくりに生かしていくとよいことを教えていただいた。

2 堀 哲夫著『一枚ポートフォリオ評価 OPPA・一枚の用紙の可能性』東洋館出版社(2019)

堀氏は、「学習全体を振り返る自己評価を行うことの重要性」について述べている。このことに関して、「学習過程において何がどう変容したのか、それはなぜかということを学習者自身が適切に把握しておくことが、自らの学習状況を改善していく上できわめて重要になってくる。このことは、一枚の用紙の中で、学習成果が構造化され、最終的には全体が見渡せるようになって初めて可能になると言える。」と述べている。このように、「学習全体を振り返る自己評価の重要性」を意識し、学習過程全体を一枚のシートで把握できるようにすることの大切さを学んだ。

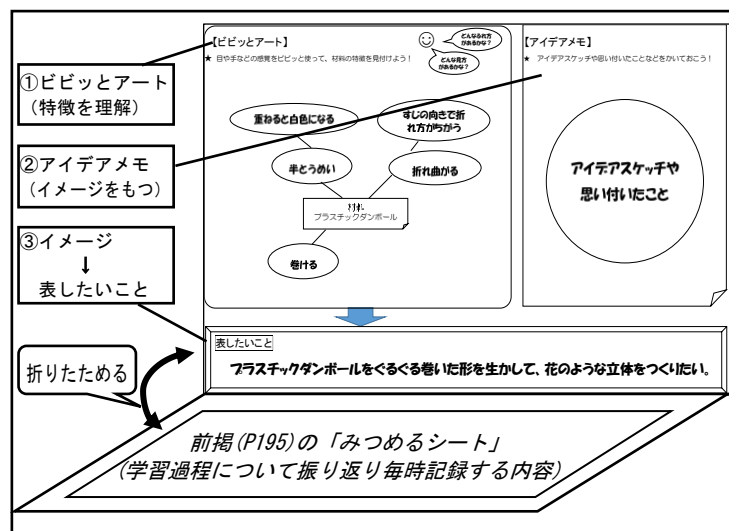
3 研修から学んだことを生かした改善点

本研究の授業実践における手立て(1)については、「児童が個々に理解した特徴について互いに共有していくとよい」という御指導を踏まえて次のように改善した。児童一人一人が感覚を働かせながらつくったものを、「ビビッとアート・コレクション」としてひとまとめに展示し、互いの発見を共有できるようにした。そうすることで、より多様な造形的な特徴に気付くことができるようにし、作品づくりに生かしていくことができるようにした(図3)。



【図3 ビビッとアート・コレクション】

手立て(2)については、『『ビビッとアート』(材料に働き掛けた様々な行為や捉えた材料の特徴)」「アイデアメモ」「表したいこと」について記述する欄を「みつめるシート」に加える。これらの内容を、学習過程について振り返り、毎時記録する内容と共に一枚にまとめることで、学習過程全体における思考の流れを一枚のシート上で整理し、学習全体を把握できるように改善する(図4)。



【図4 改善した「みつめるシート」】

V 授業実践

1 題材名「紙バンドアート ～ある日、〇〇の中に…～」(10月実施)

2 題材観

本題材は、紙バンドの特徴から表したいことを見付け、立体に表す題材である。切る、折り曲げる、巻く、裂くなどの様々な行為により、紙バンドの形が変化することを生かして面白い形を見付けたり、動きやバランスなどの構成を考えたりして工夫して表すことができるところに題材の魅力がある。

3 目標

紙バンドを切ったり、折り曲げたり、巻いたり、裂いたりして形を変えながら、形や材料の特徴、構成の美しさなどの感じを考えて、立体に表すことができるようにする。

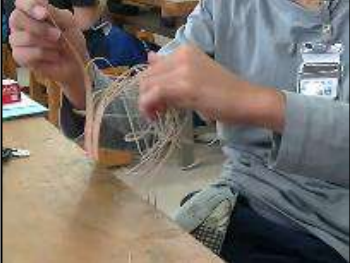
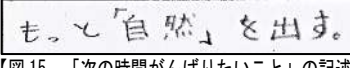
4 活動の様子（6時間完了）

時間	活動の内容と児童の様子																					
①ビビッとアート（1時間）	めあて 材料の特徴をつかむために、材料にどんな働き掛け（行為）ができるかな？																					
	ビビッとアート																					
	「材料にどんな働き掛け（行為）ができるかな？」という教師の投げ掛けから、紙バンドにどのような働き掛けができそうか予想することから「ビビッとアート」の活動が始まった。「裂く、丸める、ねじる、曲げる」など、思い付くことを次々に「みつめるシート」に記入していた。前時までに経験した、他の材料（紙・スズランテープ・新聞紙）の「ビビッとアート」を想起しながら、短時間で様々な行為を考えていた（図5・6）。 紙バンドに触れ、思い付いた行為を試していくことで、「曲げたときに跳ね返ってくる力が強い」「縦に裂くとすごく細くできる」と、様々な気付きを得ていた。さらに、「誰もやっていないことや誰も気付いていないことをやってみると、新発見があるかもね」と教師が投げ掛けると、紙バンドを水でぬらしたり、細かく裂いて握りつぶしたりするなど、教師の想像を超えるような行為を試し、積極的に材料と関わり合うようになった。そして、見付けた数多くの特徴を基に紙バンドを変化させた（図7）。 たった一つの紙バンドという材料から生まれた様々な形を台紙に貼り、「ビビッとアート・コレクション」として展示した。																					
	【図5 思い付いた行為の記述】 【図6 学級全体の見付けた行為一覧】 <table><tr><td>・切る</td><td>・曲げる</td><td>・たたく</td></tr><tr><td>・裂く</td><td>・ちぎる</td><td>・つぶす</td></tr><tr><td>・折る</td><td>・ひねる</td><td>・こする</td></tr><tr><td>・編む</td><td>・ねじる</td><td>・ぬらす</td></tr><tr><td>・結ぶ</td><td>・丸める</td><td>・束ねる</td></tr><tr><td>・巻く</td><td>・つなげる</td><td>・組む</td></tr><tr><td>・押す</td><td>・引っ張る</td><td>・握る</td></tr></table>		・切る	・曲げる	・たたく	・裂く	・ちぎる	・つぶす	・折る	・ひねる	・こする	・編む	・ねじる	・ぬらす	・結ぶ	・丸める	・束ねる	・巻く	・つなげる	・組む	・押す	・引っ張る
・切る	・曲げる	・たたく																				
・裂く	・ちぎる	・つぶす																				
・折る	・ひねる	・こする																				
・編む	・ねじる	・ぬらす																				
・結ぶ	・丸める	・束ねる																				
・巻く	・つなげる	・組む																				
・押す	・引っ張る	・握る																				
②発想・構想（1時間）	めあて 紙バンドの特徴を生かして、表したいことを見付けよう！																					
	前時にでき上がった紙バンドの「ビビッとアート・コレクション」（図8）を提示し、紙バンドの特徴を理解するためにどのような働き掛け（行為）をしたのか想起させた。 「切ったり裂いたりして細かくできることが分かった」「曲げたり巻いたりしたら、跳ね返る力があつた」など、様々な行為を試した経験から、紙バンドの特徴について理解している様子が見られた。 次に、「ある日、〇〇の中に…こんな紙バンドアートがあつたら？」と想像してみよう」という投げ掛けを基に、紙バンドの特徴を生かして、どのような「紙バンドアート」を表していくのかを考えた。 「ビビッとアート・コレクション」を見て参考にしたり、「みつめるシート」の「アイデアメモ」に絵や言葉で書き出したりしながら、表したいことを明確にした。																					
	みつめるシート																					
	多くの児童は、「みつめるシート」の「表したいこと」の枠に、「宇宙をイメージした不思議な感じの紙バンドアート」「海の波をイメージした紙バンドアート」など、自分の表したい紙バンドアートを書き表していた。しかし、こだわり達成度の記述内容を見ると、自分の表したいことを見付けることができ、こだわり達成度が高い児童がいる一方で、自分の表したいことを見付けることができず、こだわり達成度が低い児童も少し見られた。表したいことを明確にできなかった児童には、「紙バンドの〇〇な特徴を生かしてみるのはどうかな」と、児童一人一人に適した教師からの助言を「みつめるシート」に書き加えることで、次時への見通しがもてるよう支援した。																					
<table><tr><th>観察児童A児</th><th>観察児童B児</th><th>観察児童C児</th></tr><tr><td> 特徴：裂くと細長くなる。 イメージ：つるみたい（図9）。 表したいこと：自然の中にある、つるや実を表す丸で構成された立体をつくりたい。 ほそい紙バンドでつるみたいにして自然、感じをだしたい 【図9「がんばりたいこと」「アイデアメモ」の記述】 </td><td> 特徴：裂くとうねうねする。 イメージ：さんごみたい（図10）。 表したいこと：海の中にいそうな生き物みtainな立体をつくりたい。 アさんごみたいも感じ 【図10「アイデアメモ」の記述】 </td><td> 特徴：裂くと細くなり、束ねられる。 イメージ：海藻みたい。 表したいこと：「ビビッとアート」でつくった作品を生かして、海の中の魚や海藻みtainな立体をつくりたい。（図11）。 【図11「がんばりたいこと」の記述】 </td></tr></table>			観察児童A児	観察児童B児	観察児童C児	特徴：裂くと細長くなる。 イメージ：つるみたい（図9）。 表したいこと：自然の中にある、つるや実を表す丸で構成された立体をつくりたい。 ほそい紙バンドでつるみたいにして自然、感じをだしたい 【図9「がんばりたいこと」「アイデアメモ」の記述】	特徴：裂くとうねうねする。 イメージ：さんごみたい（図10）。 表したいこと：海の中にいそうな生き物みtainな立体をつくりたい。 アさんごみたいも感じ 【図10「アイデアメモ」の記述】	特徴：裂くと細くなり、束ねられる。 イメージ：海藻みたい。 表したいこと：「ビビッとアート」でつくった作品を生かして、海の中の魚や海藻みtainな立体をつくりたい。（図11）。 【図11「がんばりたいこと」の記述】														
観察児童A児	観察児童B児	観察児童C児																				
特徴：裂くと細長くなる。 イメージ：つるみたい（図9）。 表したいこと：自然の中にある、つるや実を表す丸で構成された立体をつくりたい。 ほそい紙バンドでつるみたいにして自然、感じをだしたい 【図9「がんばりたいこと」「アイデアメモ」の記述】	特徴：裂くとうねうねする。 イメージ：さんごみたい（図10）。 表したいこと：海の中にいそうな生き物みtainな立体をつくりたい。 アさんごみたいも感じ 【図10「アイデアメモ」の記述】	特徴：裂くと細くなり、束ねられる。 イメージ：海藻みたい。 表したいこと：「ビビッとアート」でつくった作品を生かして、海の中の魚や海藻みtainな立体をつくりたい。（図11）。 【図11「がんばりたいこと」の記述】																				

③製作
(3時間)

めあて 「紙バンドアート」に、紙バンドのどのような特徴を生かすことができるかな？

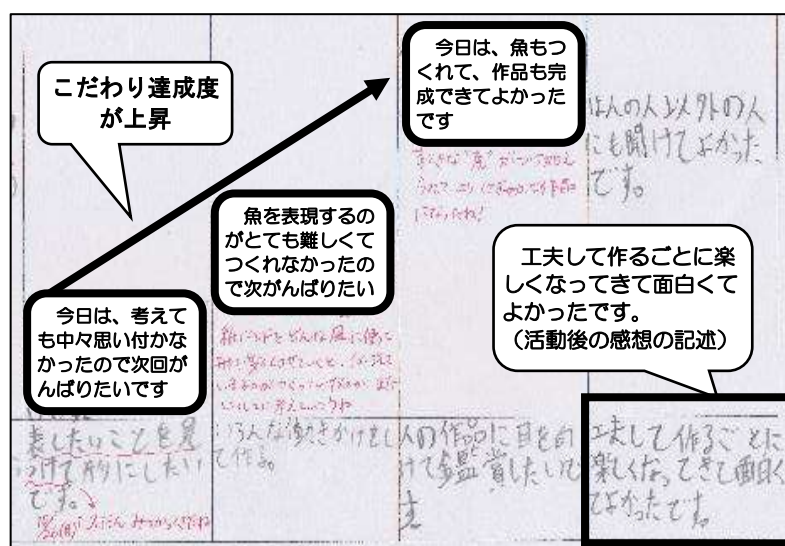
「みつめるシート」に記入した「紙バンドの特徴」「アイデアメモ」「表したいこと」を参考に、紙バンドの特徴をどのように生かすのかを考え、思い思いに製作した。

	観察児童A児	観察児童B児	観察児童C児
製作 (1/3)	丸い輪の形を組み合わせ、裂いた紙バンドを巻き付けて、自分の表したい形になるよう表現した(図12)。  【図12 丸い形を組み合わせる様子】	紙バンドを細かく裂き、さんご礁のような形を思い浮かべながら製作した(図13)。  【図13 紙バンドを裂く様子】	細く裂いた紙バンドを束ねて、海藻のような形を製作した(図14)。  【図14 裂いた紙バンドを束ねる様子】
みつめるシート (自己調整)	「次の時間ががんばりたいこと」の枠に、「もっと自然を出す」と記述し、森や自然の雰囲気をもとに表現しようと考えていた(図15)。  【図15 「次の時間ががんばりたいこと」の記述】	どのように工夫して表したらよいか悩んでいるようだったので、教師が「海のイメージに合う形を更に付け足したらどうか」と助言すると、表したいことに生かせる特徴について考えていた。 その後、「海の波を表すために、紙バンドを階段みたいに折り曲げてみよう」と思い付いていた。	どのように表していくか、具体的なイメージをもてずにいるようだったので、教師が「イメージしている形にぴったりな紙バンドの特徴は何か」と助言した。 その後、海の泡みたいな形を表したいという思いをもち、「紙バンドを丸めてまりのような形をつかって、組み合わせてみよう」と思い付いていた。
表現の追求			
製作 (2/3)	より「自然」なイメージを表すために、細く裂いた紙バンドをまとめた形をつくり、作品の真ん中に組み合わせていた(図16・17)。  【図16 束ねた紙バンドを真ん中に入れた作品】	紙バンドがいくつも重なるように貼り付けている友達の作品のよさを見付け、「波」を表現しようとした自分の作品に生かしていた(図18・19)。  【図18 波をイメージした形を貼り付ける様子】	海の泡をイメージした形にしようと、紙バンドを曲げて球体のような形をつくり、表現していた(図20・21)。  【図20 輪を組み合わせて球の形をつくる様子】
みつめるシート (自己調整)	大きい丸の中に糸田(い)紙バンドを束ねた物を入れた。 【図17 「こだわり達成度」の記述】	(1/28(水)の次の時間)に大人はりたいことかできた。前回よりいい作品になった。なみをかえた) 【図19 「こだわり達成度」の記述】	1/4(水)まりみ(み)たいな形が作れた。なみ(み)をかえた。 【図21 「こだわり達成度」の記述】
製作 (3/3)	紙バンドの裂くと細長くなるという特徴から、その形に植物のつるという意味をつくりだし、自然の中にとびつた作品にすることができた(図22)。  【図22 完成作品「ある日、森の中に」】	紙バンドの裂くと細長くなる特徴や折り曲げられる特徴から、その形にさんごや波という意味をつくりだし、海の中の雰囲気を表した作品にすることができた(図23)。  【図23 完成作品「モジャモジャな海」】	紙バンドの裂くと細長くなる特徴や丸めると球の形になる特徴から、海藻や泡という意味をつくりだし、海の中をイメージした作品を完成させることができた(図24)。  【図24 完成作品「不思議なアート」】

みつめるシート

「みつめるシート」には、毎時間の終わりに活動を振り返り、「裂いた紙バンドを組み合わせることができた」などと記述し、成果や課題を見付けられる様子が見られた。また、見付かった課題の解決に向けて、「次は裂いた紙バンドで他に何ができるかさらに考えてつくる」などと記述しながら、学習の自己調整を図っていた。

児童の記述からは、第3時、第4時、第5時と製作を重ねていくにつれて、こだわり達成度が徐々に上がっていく様子が読み取れた(図25)。



【図25 「こだわり達成度」が上昇した児童の「みつめるシート」の記述】

④鑑賞(1時間)

めあて 鑑賞会で互いの作品のよいところを感じ取り、見方や感じ方を深めよう！

鑑賞会では、作品の題名や作品に込めた思いについて、友達と伝え合った。自分の作品について笑顔でうれしそうに話す姿が見られた(図26)。B児は、「紙バンドの細く裂くとうねうねする特徴を生かして、さんご礁みたいな形をつくりました」「海の中の雰囲気が見えるようになってつくりました」と作品に込めた思いを語っていた。「これは海の波みたいだね」「このもじゃもじゃのさんご礁は波で揺れているみたいだね」という友達の言葉を満足そうに聞いていた。また、「この真ん中にあるのはエネルギーで、周りの形はそれを守っている感じを表そうと、包み込むような形にこだわったんだ」と熱心に語る児童の姿も見られた。授業の終わりには、「みつめるシート」に、「友達の話聞いて、意図やよさが分かって楽しかった」「作品を見る人によって感じ方が違って面白いな」などと記述し、互いの作品の表現の意図やよさを感じ取る様子が見られた。



【図26 互いの作品について話し合う様子】

5 授業実践の結果と考察

(1) 検証事項1

授業の様子から、「ビビッとアート」を行った結果、児童は、どのような行為ができるだろうかと積極的に材料と関わることで、多様な造形的な視点で対象を捉えることができたと言える。

「イメージをもつこと(6月・11月)」の調査結果から、イメージをもち、それを具体化して表したいことを考えている児童が12人から18人に増加し、イメージをもつことができない児童は7人から1人に減少していることが分かる(表5)。

また、実践後に6月と同様の質問紙調査を行い、表6のようにクロス集計した。

質問事項「かいたりつくったりする前に十分試すことができますか」において、「十分できている」「まあまあできている」児童29人のうち、イメージをもち、それを具体化して表したいことを考えている児童が17人、イメージをもつことができている児童が12人だと読み取れる。これらのことから、「ビビッとアート」を通して、感覚を働かせながら材料に働き掛ける行為に着目して、多様な造形的な視点で対象を捉えた経験は、表したいことのイメージをもつ上で有効であったと言える。

【表5 「イメージをもつこと」の評価】

評価規準【イメージをもつこと】	6月	11月
◎ 自分のイメージをもち、それを具体化して表したいことを考えている。	12人	18人
○ 自分のイメージをもっているが、表したいことに具体的に近づけていない。	12人	12人
△ 自分のイメージをもつことができていない。	7人	1人

【表6 クロス集計「イメージをもつこと×試すこと」11月】

試すこと イメージをもつ	十分 できている	まあまあ できている	あまり できていない	できていない	合計
◎	12人	5人	1人	0人	18人
○	3人	9人	0人	0人	12人
△	0人	0人	1人	0人	1人
合計	15人	14人	2人	0人	31人

(2) 検証事項 2

授業の様子から、「みつめるシート」を活用して、自分の活動を振り返り、成果や課題を見付けることができた。記述内容を見ると、製作場面において活動を重ねていくにつれて、こだわり達成度が徐々に上がっていく児童が多く見られた。これは、「みつめるシート」を手掛かりに、学習の自己調整を図りながら表現を追求し、よりよい表現につなげることができたからだと考える。

表 7 から、めあてを基に活動を振り返り、成果と課題を見付けることができる児童が 10 人から 20 人に増え、めあてや見通しをもって取り組むことができない児童が 8 人から 2 人に減ったことが分かる。また、6 月と同様の質問紙調査結果とクロス集計した表 8 から、めあてを

基に活動を振り返り、成果と課題、または、成果や課題を見付けることができていた児童 29 人のうち、質問事項「思い通りにつくることができていますか」において、「十分できている」「まあまあできている」と答えた児童は 27 人であることが読み取れる。

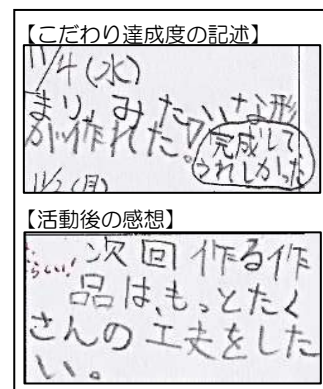
以上のことから、「みつめるシート」の活用により、活動を振り返り、成果や課題について見つめ直して学習の自己調整を図ることは、表現を追求したり、自らの活動に達成感をもたらせたりして、造形活動に意味や価値をつくりだす上で有効であったと考える。一方で、「みつめるシート」を活用しても、自分の活動に対する成果や課題を見付けられず、学習の自己調整を図ることのできない児童もいた。それは、自分の活動を客観的に振り返ることができず、課題を明らかにできなかったためだと考える。今後はさらに、めあてと照らし合わせて客観的に学習を振り返ったり、課題の解決方法を考えたりできるよう指導を工夫する必要があると考える。

【表 7 「学習の自己調整」の評価】			
評価規準【学習の自己調整】	6月	11月	
◎ めあてを基に活動を振り返り、成果と課題を見付けている。	10人	20人	
○ めあてを基に活動を振り返り、成果または課題を見付けている。	13人	9人	
△ めあてや見通しをもって取り組んでいない。	8人	2人	

【表 8 クロス集計「学習の自己調整×思い通りにつく」11月】				
学習の自己調整 思い通りにつく	◎	○	△	合計
十分できている	14人	5人	1人	20人
まあまあできている	5人	3人	0人	8人
あまりできていない	1人	1人	1人	3人
できていない	0人	0人	0人	0人
合計	20人	9人	2人	31人

VI まとめ

表したいことのイメージがもてないために、何をどうつくっていけばよいか分からず、思いを実現することができず感じていた C 児は、「みつめるシート」に図 27 のように記述した。表現を追求しながら作品を完成させ、達成感を味わい、さらに、次につくる作品に対してもよりよいものにしたいという意欲をもつことができたことが分かる。感覚を働かせる体験活動「ビビッとアート」の活動を通して、材料とじっくりと向き合い、様々な行為で材料に働き掛けることで、より豊かなイメージをもちながら活動することができたと言える。また、実践後の感想に「ひたすら考えてつくり続けたから、自分の作品のことをすごく気に入っている」という記述があった。児童が自ら課題を見付け、発想・構想し、表現を追求することは、意思決定の連続であり、児童にとって困難なことなのかもしれない。ときには失敗しながら、自分のイメージをもって表現の追求をして、意味や価値をつくりだすことを実感することができたからこそ、このような感想をもつことができたのではないだろうか。今後も、思いを実現する中で、自分にとっての新たな意味や価値をつくりだすことができる造形活動の在り方を追求し、作品をつくりだすだけでなく、造形活動に自分にとっての意味や価値をつくりだしていることを実感できる児童の姿を求め続けていきたい。



【図 27 C 児「みつめるシート」より】